

明治期の「コレラ禍」③

明治期の「コレラ禍」にしても、現代の「新型コロナウイルス」にしても、程度の差こそあれ、消毒を徹底し衛生的状況を保持するという点などでは、その予防法が共通しています。一方で、明治期という時代を反映した「コレラ禍」ならではの予防対策もみられます。

明治十九年（一八八六）六月に埼玉県北・中葛飾郡長鈴木敏行から各戸長役場宛に出された伝染病予防の説諭では、分かりやすい簡条書きとなっています。

- 一、伝染病予防ノ為メ戸長ハ毎月数回特ニ其部内ヲ巡回シ戸毎ニ就キ左ノ各項ヲ説諭シ処分セシムルモノトス
- 二、但シ事務ノ都合ニ依リ筆生若クハ他ノ適任者ヲ雇フテ之ヲ行ハシムルヲ得
- 一、塵芥糞桶等ヲ積置カシメサルコト
- 二、但止ヲ得サルトキハ人家及道路河川等ニ隔リタル地ニ之ヲ積置カシメ日光ヲ防クニ足ルヘキ覆蓋ヲナサシム可シ
- 二、牛馬繫留場ヲ清潔ニ掃除セシムル
- 三、下水其他ノ汚水ヲ疏通セシメ且糞蓋

ヲ堆積セシメサルコト
但シ成丈ケ日出前日没後之ヲ汲取ル可シ

四、飲料水ノ混濁シタルモノハ汙過シテ用エシムヘシ
(後略)

明治期といっても、庶民の生活は、前近代の江戸時代とほとんど変わらない中で、コレラ対策の様子が伝わってくるようです。また、現代とは比較にならないくらい情報過少の中で、その予防対策がどこまで実効性があったのか、またその周知徹底がどこまで図られたのかはわかりません。

しかしながら、現代の新型コロナウイルス対策でも、あらゆる情報が錯綜し、その真偽が見極められないものが多々あります。見えない病原体との戦いとは、いつの世もそんなものなのかもしれません。



▲明治十九年伝染病予防説諭

(社会教育課 町史・文化財担当編)

オリンピックの卵 ★ スポーツ少年団

番外編

杉戸町スポーツ少年団 (本部)

町スポーツ少年団の沿革

杉戸町スポーツ少年団は1976年に発足し44年目を迎えました。子どもたちは、スポーツ少年団活動を通じてスポーツを楽しみ、野外・文化・社会活動などを通じて協調性や創造性を養い、社会のルールや思いやりのこころを学びます。

町スポーツ少年団加盟種目 (団体数) 令和2年10月1日現在
サッカー (4)・野球 (5)・剣道 (1)・バレーボール (1)・軟式テニス (2)・体操 (1) **6種目14団体**

現在、団員数229名・指導者数116名。随時団員募集中！

機関誌「杉戸町わいわいスポーツ少年団 (スポーツ少年団だより)」
毎年3月発行で団員の声を掲載し続けて28年！町HP等で公開中

町スポーツ少年団事業・イベントをチェック！

- ☑ 杉戸町スポーツ少年団大会：楽しい競技が盛沢山の運動会。
 - ☑ スポーツ体力テスト：日頃の体力作りの成果を試そう。
 - ☑ 指導者・母集団合同研修会：指導・育成のノウハウを学ぶ。
- その他イベント・大会への参加や奉仕活動、団独自の活動あり！

問 杉戸町スポーツ少年団事務局
社会教育課 スポーツ振興担当 内線493



▲上記写真は過去の「オリンピックの卵コーナー」掲載画像を再構成したものです。



UD FONT by MORISAWA
ユニバーサルデザイン (UDフォント) を
使用し、読みやすい書体を採用しました。

杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎとメール



広報スマホ版
マチイロ

